

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：かわかどカヌー倶楽部

代表者：代表 真野 博

URL : <https://www.facebook.com/kawakadocanoelub>

1. 活動が必要とされた状況



高麗川は、埼玉県でも清流で知られる川であり、また、木製沈下橋が複数のこる里川である。しかし、多和目地区は、都市部と農村部の間に位置し、草や篠が鬱蒼と茂った川原もあり、また、自動車が通行可能な道路が伸びていることから、不法投棄ゴミが目立った。

また、本地域の高麗川は、川幅が広く、水深も深く、また左岸が崖であることから、簡単にアクセスできない箇所には漂着ゴミが散在していた。

以上のことから、川や川原に、人々が近づきたいと感じる河川の状況ではなかった。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



毎月隔週での川岸の美化活動を実施した。また、夏季から秋季にかけてカヌーを用いた水上の美化活動を行った。また、適宜、川岸の道をふさいだ竹の処理、水質検査などを行った。大学生（城西大学、明海大学など）を中心に、延べ35回、165名が活動に参加した。

美化活動等にとどまらず、高麗川流域で食べられる魚類や植物、きのこなどの調査・研究も実施した。

また、11月初めの「高麗川まるごと再生プロジェクト着手式典」においてカヌーを利用した水上美化活動のデモンストレーションを行った。

3. 活動の成果

本活動の成果により、不法投棄されるゴミが顕著に減少した。その理由として、これまで、人が近づきにくい本エリアに、行政による「刈り払い」、本会による定期的な美化活動やリクリエーションとしてのカヌーにより、様々な人々が川や川岸に近づきやすくなったことが一つあげられる。また、ジュニア世代、シニア世代の方々が、川再生活動に参加する例は多いが、本活動は個人個人の「大学生」が中心の活動であり、それを支えるのが本会の役割と考えている。本会の下部組織として発足した「高麗川かわガール」も独自に発展している。

4. 今後に残された課題

この地域は、埼玉県と坂戸市の「高麗川まるごと再生プロジェクト」による整備地区になっており、地域の再整備が進む中、本会の今後の活動は重要であると考えている。

また、漂着ゴミなどに関しては、上流の関係者（住民、観光客、自治体、行政など）にも働きかけが必要であると考えている。